04

第二期HIRAKU-Global教員

で、お互いを尊重し合う風土があるので、会話も弾みます。意見交換するときも、まずは面白がって“聞く姿勢”を示してくれます。もちろん聞くだけでなく、アイデアを提供あq篇瑙違わ覗A潺敦L暮ｽ驥る契参伴其嶋ﾆ®働が鑄がL翠誠ﾆ懸協6て姿の

## 尊重し合う風土でイノベーションを

約3カ月の間、米国・ミシガン州立大学で共同研究を行ってきた松本先生。同大学を選んだ経緯は次のとおりだ。

「共同研究のパートナー Christopher Contag教授とは、ある論文を機に関わりを持つようになりました。その論文は枯草菌を細胞内に共生させ、物質導入を行い、マクロファージ細胞の機能を制御するというものでした。自分の研究内容と似ていたため連絡を取り、共同研究を申し出たところ、快諾してくださいました」

しかしContag教授の論文を見つけた当初は、「同じ研究テーマで本当に一緒にやっていけるのだろうか」と不安がよぎったそうだ。そこでHIRAKU-Globalメンターの登田先生に相談すると、「競合するよりは、協働すべきだ」と背中を押され、共同研究を決心したという。

実際に現地に行ってみると、教授のラボがある研究センターは、フロアごとに異なる分野の研究ラボがあり、所内では分野を超えての共同研究も行われていた。そうした研究環境について先生は次のように話す。

「アメリカは、研究者を温かく迎える環境が整っています。研究者同士の関係性もフラット